保護者各位

◆　山登塾　夏期講習のご案内　◆

数理個別指導　山登塾
塾長　　山本　　孝司

拝啓　初夏の候、皆様方におかれましては、益々御健勝のことと存じます。平素は格段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度『2012 年度　山登塾　夏期講習』を行いますので、ご案内申し上げます。

敬具

〔はじめに〕
今年度も7月２２日（日）より、８月３１日（金）までの期間に夏期講習を開講致します。夏期講習は、苦手な分野の克服やさらに理解を深めたい分野の習得に、時間を十分取れる機会です。学習したい分野がある生徒さんは、希望分野をお申し出下さい。各専任の講師がカリキュラム、テキスト等を決定いたします。また、特にお申し出のない場合は、各個人に合わせた単元、分野を指導いたします。
今後の学習内容を充実したものにするためにも、この夏休みのスケジュールをご検討下さい。

● 夏期講習　開講期間・講習時間について

期　　間：7月 22 日（日）～8月３１日（金）
（但し、７月 29 日、８月 11・12・13・14・15 日は除く）
講習時間：午前　9:30～12:00
午後　1:00～3:30　　（1 コマ　2 時間 30 分授業）

＊ 振替授業について
受講日の前日までは振替可能です。但し、当日の振替は出来ません。

● 受講料について

以下は、1 コマ（2 時間 30 分）の講習料になっております。
小・中学生：3,550 円（税込）
高校生　　：3,850 円（税込）
高卒生・大学生・一般：3,850 円（税込）
各セット授業については、別紙（2012 年度山登塾夏期講習セット授業）をご覧下さい。
なお、各科目 1、2 冊のテキスト（1 冊 1,000 円前後）をご購入いただく場合がございます。

● お申込方法について

同封しております、夏期講習申し込み用紙（提出用）にご記入の上、受講料を添えてお申込み下さい。追加授業のお申込みは、担当講師までお申し出下さい。
なお、一旦納入されました受講料等のご返金には応じかねますので、御了承下さい。ご不明な点がございましたら、お問合せ下さい。

● 講習内容について

★ 選択個別授業

個別指導で下記科目の中から、ご希望科目、回数を選択して受講していただけます。
授業時間は、１コマ２時間３０分授業になっております。
１つの単元を履修するには、数学５コマ、英語３コマを目安にして下さい。
科目：数学・算数・理科（中学理科）・物理・化学・英語

★ セット授業

それぞれのテーマについて、個別にて指導します。
各セット授業を履修するために、予め授業回数（コマ数）を設定しております。
セット授業は、山登塾オリジナルテキストを使用します。
このテキストは、山登塾各科の講師が実際に教えている場で、最も良問と思える問題を集め、それぞれの単元にまとめ、

解説用の問題
演習用の問題
「試行錯誤」しながら、じっくりと考え抜く問題

に分け、１冊にまとめたものです。
山登塾では、夏期講習時に、これらを使用し、ひとつひとつを基本から応用まで確実に効率よく習得していくシステムです。
数学では中学生セットは３回、高校生セットは５回、
英語では中学生セットは３回、高校生セットは３回で
単元における、出来るだけ多くの解法を取り入れ、目標としているレベルの問題を考え抜く力を身につけていきます。
数理個別指導山登塾が自信を持って編集・作成したセット授業になっています。
☆ご希望の日時で受講できます。
各セット授業につきましては、別紙（2012 年度山登塾夏期講習セット授業）をご覧下さい。

夜の通常授業は平常通り行っておりますので、ご注意下さい。

中学生、高校生の皆さん！
あと少しで夏休みに入ります。夏休みにどんな勉強をしようかと、考えている人も多いと思います。
まずは、数学、英語の下記の内容を読んでください。まとまった時間の作れるこの時期だからこそ、出来ることがあると思います。目標を決めかねている場合、講師に相談して下さい。各自の進度状況、志望を考慮にいれ、目標を提案します。是非、夏休みを有効に活用して下さい。

数　学　科

（中学数学）

みんなのクラス、学年にも数学が得意な人が必ず一人や二人いますよね。
どこがちがうと思いますか？
例えば、夏休みというような、ある程度まとめて時間が作れる時期こそが狙い目なのです。
ある期間、集中して、じっくり数学の問題に立ち向かい、完全な理解（「ああ、そうか！「それはすごく便利な公式だなあ！」などと思ったとき」）を積み重ねて数学力はグングンついていきます！
一年に一度の夏休み、ガンバッテみましょう。

中学生セット授業案内（個別授業）

下記は、数学セット授業の抜粋です。他のセット授業につきましては、「夏期講習セット授業」をご覧下さい。

●数学夏期特訓　　＊対象：高校受験を控えた中学３年生

高校入試対策の基本から実力養成までを１０コマ（１５００分）に凝縮。
テーマは大きく分けて４つに分けて行います。

- 計算問題の定着と完成
- 文章題と方程式
- 関数問題の解き方、考え方
- 図形と戯れる

また、数学の問題を解く為に必要となる
『できる問題を確実にゲットすること』
『苦手な問題に対しての解答の糸口の見つけ方』
『誰もが苦戦する問題の見極め』
を伝授します。

●２次方程式（文章題）　　＊対象：２次方程式の計算まで履修している生徒

文章の中身は単純でも何が書いてあるのか？？？なんてことが多いですね。
図形、グラフ、％、時間・距離などほとんど作れる方程式の型は決まっています。その型を覚えてそこに肉付けします。意外と簡単なのです。

●比例・反比例と一次関数

入試で必ず出題される関数の中から、すでに習っている分野を基本からたどっていきます。応用問題を解く足がかりとして、今後習う２次関数の対策に必要となる部分を中心に伝授していきます。

●証明問題演習

証明って“解答をどう書けばいいか・・・”“どっから考えたらいいか・・・”心配ないです。『証明にはいくつかのパターンがある！』このパターンを覚えて練習すれば怖いものなし。

●入試問題チャレンジ

入試問題に潜む出題者の意図、そこのところを常に意識しながら問題に挑む。入試で実力を発揮するには、どんな力が必要なのかを分析！

（高校数学）

限られた時間の数学の授業の中で教科書の内容を省略していくことは往々にしてあります。言いかえれば、それ程高校数学は、内容も量も非常に多いのです。そして、肝に銘じておいて欲しいことは、高校受験とは違って大学受験は全国の受験生を相手に勝負しなければいけない、ということです。

やみくもに時間をかけるだけでは、成果が上がるわけではありません。どれだけ質の高い、密度の濃い勉強をするか、ということにかかっています。

ただ何気なく、**「この公式を使ったから、解けた。」**と感じているのでは、成果は期待できません。**「なぜこの時に、この公式を使うのか。」**「自分では、このように解いてみたけれど、問題集の解答では違っていた。どうしてこの解き方ではダメなのか。」など、ひとつひとつに妥協をしないことが成果を上げる１つのポイントです。

そして、今の自分に何が不足しているのか、志望校に合格するためには何が足りないのか、という意識を持って、この夏休みを過ごすことが大事なのです。

夏休みのうちに不足分を補っておかないと受験には間に合いません。センター対策あるいは２次数学対策で２学期以降、弱点対策に割く時間は無いのです。

今回、細かく単元別にセット授業を用意しています。この一つ一つの単元と自分とを照らし合わせて実力を分析して下さい。

単元別の重要な部分から細部まで、ポイントを整理して網羅しているので、上記のことに注意しながら進めることで確実に力が付いてきます。後々振り返って

『この夏休みに頑張ったから、力がついた！！』

と言える実りのある期間にしましょう。

高校生セット授業案内（個別授業）

下記は、数学セット授業の抜粋です。他のセット授業につきましては、「夏期講習セット授業」をご覧下さい。

●二次関数の最大値・最小値　　＊対象：中学卒の人ならチャレンジできます。

“野球で言えばキャッチボール”ここは外せません。

二次関数の基本から最大・最小問題（指数・対数、三角関数の最大・最小などに大活用できる！！）までを極めるセット。

●有名不等式　　＊対象：数学ⅠＡ・ⅡＢまで履修した人ならＯＫ。

“代打！相加相乗平均”（その他コーシー・シュワルツの不等式など）登場させるタイミングさえ押さえておけばあなたも名監督。

●指数・対数関数からの最大・最小　＊対象：指数・対数関数履修した人ならＯＫ。

扱いなれない機械の操作には“取扱説明書”があれば OK。指数・対数から二次関数へは置き換え利用で攻略完了。

●三角関数からの最大・最小　　＊対象：三角関数履修した人ならＯＫ。

最大の POINT は似てないもの同士（三角関数と二次関数）をつなぐこと！Key は“置き換え”三角関数の必需品（公式）も大活躍。

●マーク問題はこう解け！(数ⅠＡ編、ⅡＢ編)

＊対象：数学ⅠＡ・ⅡＢまで履修した人ならＯＫ。（特にセンター対策にＧＯＯＤ）

問題に文章化されているのは氷山の一角！水の中の部分を見抜く！マーク問題作成者が君に何をさせたいのか知りたいでしょ？解答の時間配分や解答順序もしっかりアドバイス。

●マーク問題攻略【各単元】

＊対象：数学ⅠＡ・ⅡＢまで履修した人ならＯＫ。（特にセンター対策にＧＯＯＤ）

センター試験６０分！苦手なところで時間を使って痛い目に遭わないように！ここの単元だけを克服したいあなたのためのセット。

●＋αの数学～合同式、シュワルツの不等式、相加相乗平均～

＊対象：等式・不等式の証明（数Ⅱ）を履修した人ならＯＫ

「何故ココで相加相乗？」といった疑問を解消。こんな解き方すればスッキリするといったものの詰め合わせ。合同式は整数問題の時に大いなる威力を発揮。

● “考え抜く”数学（大学入試対策）

＊対象：等式・不等式の証明（数Ⅱ）を履修した人ならOK

大学入試問題レベルの問題をとことん検証、追及して解ききっていく。

・初めて出会うような問題を解くためにどういった下準備が必要なのか

・問題を眺めてみて、ある程度の解答イメージができている？

できていないのなら、どのパターンに当てはめるのか？

大問１つにつき20～30分与えられた時間の中で、どのように仕上げていくのか、難しい問題を解いていくことで出てくる各自の課題を解消。

●因数、剰余　　＊対象：中学内容終わっていれば受講可能

そもそも因数分解の「因数」とは何か？「整式を割る」「余りが出る」ことは何に直結するのか。因数分解には解くための手順があります。そして、解く前に結果の予測もついてきます。その考え方を数Ⅰの内容からだけではない視点から進めていきます。

中学理科

中学生セット授業案内（個別授業）

下記は、中学理科セット授業の抜粋です。他のセット授業につきましては、「夏期講習セット授業」をご覧下さい。

●＜特集＞１分野克服

今の力の状態から先に進んだり戻ってみたりしながら、１分野を克服していくスタイルをとります。１分野を復習したいけど、この単元のこの部分だけが苦手という生徒の為に用意しました。繰り返しの勉強からその分野の知識を踏み固めて、本当の力をつけさせていきます。

光（鏡、凸レンズ、ガラス）	（２コマ）
水溶液（溶解度、気体）	（２コマ）
電気（オームの法則）	（２コマ）
磁界	（２コマ）
化学反応	（２コマ）
力（圧力、仕事）	（２コマ）

●入試問題から習う

難しいと思いがちの入試問題などから、どんな語句、公式が必要なのか。また、どのくらいの知識が必要なのか。その使い方、覚え方を伝授します。実力テストで自分の持っている力を十分に発揮できるようになりましょう。

１分野編	（３コマ）
２分野編	（３コマ）

英　語　科

（中学英語）

中学に入って、英語が始まり、その文字、単語、音声、文の構造やそのことばの背景となる文化にいたるまで、膨大な量の新しい知識との出会いに戸惑ったり、圧倒されたりして、苦しんでいませんか？

「私は英語の才能がない。」とか「私は英語に向いていない。」という声を時々、耳にします。しかし、「英語の才能」や「英語への向き、不向き」などは存在しないのです。ことばは、それがどの言語であれ、能力や才能とは関係なく身につくもので、本来その環境さえあれば、誰にでも習得できるものなのです。ではその「環境」とは何でしょうか？

ことばを習得するための「環境」とは、実は「反復練習」のことを指すのです。母国語である日本語も、「才能」「能力」などとは関係なく、膨大な量の「反復練習」によって身についたものです。新しいことばを「知り」、そしてそれを「使う」という２つの種類の「反復」が繰り返されてはじめて、「うまく使える」ようになるのです。

ところで、みなさんは英語の勉強が暗記中心になっていませんか？覚えることばかりに意識がいき、それを練習したり使ったりすることを怠っていませんか？覚えることばかりを繰り返しているとその知識は混乱し、いくら覚えても忘れてしまう、わからない、使えないという事態に陥ります。

この夏休みは、絶好の機会です！！その「知る」「理解する」という **“input”**（入力）と、「使う」という **“output”**（出力）をバランスよく「反復」することで、みなさんに必要な英語力を身につけましょう。

中学生セット授業案内（個別授業）

下記は、英語セット授業の抜粋です。他のセット授業につきましては、「夏期講習セット授業」をご覧下さい。

●【先取り】コース（５コマ、１０コマ）

「反復」の第一歩を予習から始めましょう。学校の教科書に準拠した形式で行います。

●【弱点解消】コース（各３コマ）

単元別に効率よく、弱点を克服するためのコースです。

●【総復習】コース（１年―５コマ、２年―１０コマ、３年―１５コマ）

「はじめからやり直したい。」という人のためのコースです。

●【特訓】コース（各５コマ）

単語＆熟語の習得に特化したコースです。品詞別、場面別あるいは、その派生語などを整理して覚えることで、単純記憶の量を減らし、その定着度を高めます。

●【受験対策】コース（各５コマ）

問題形式別にその勉強方法から問題を解くテクニックまでを身につけられるよう、それぞれの志望校に合わせた内容で行うコースです。

入試問題は、長文・対話文問題が主体ですが、学校の授業では、一時間の授業で５文程度の表現を学ぶことが中心となっており、入試問題における長文・対話文問題対策がほとんどなされていないのが現状です。入試問題レベルの長文を読み、理解できるようになるには、まず、かなりの数の英文を読むことから始めなければなりません。

また、奈良県立高校入試における英作文の問題は、以前は自分の趣味などを２～３文の英語で書くという簡単なものだったのですが、年々、そのレベルが高くなり、最近では、長文で述べられている社会問題に対する自分の考えを25 単語程度の英語で表現する問題にまで変化してきています。当然、その配点も高く、この英作文の対策を講じることなく、入試に挑むのはあまりにも不安が大きすぎます。また、この対策にはかなりの時間を要しますので、冬休みからと言わず、ぜひ、この夏休みからじっくりと取り組み始めてください。

セット授業の選択でお悩みの方は、下記をご参考にして下さい。

●*英語が苦手なので最初からやり直したい（各学年）*
⇒【総復習】英語を始めからやり直す
●*最近、英語がよくわからなくなってきた（各学年）*
⇒【弱点解消】単元別　の該当講座
●*中間・期末テストの点数をアップさせたい*
⇒【先取り】中間考査点数アップ
⇒【先取り】これで安心！２学期全部先取り
●*高校入試に備えて弱点を解消させたい*
⇒【弱点解消】受験勉強を始める前に　中学のまとめ
⇒【弱点解消】単元別
●*難関校への準備を始めたい（１、２年生）*
⇒【先取り】国公私立難関校に向けて！（２・３学期総先取り）
⇒【弱点解消】受験勉強を始める前に　中学のまとめ
●*県立高校の中～上位校を考えている（３年生）*
⇒【先取り】高校入試に必ず出る！　不定詞・間接疑問文
⇒【先取り】高校入試に必ず出る！　分詞・不定詞
⇒【受験対策】長文・対話文（奈良県立）ー長文なんて怖くない！ー
⇒【受験対策】自由英作文　ー中～上位校志望必須ー
⇒【受験対策】リスニング＆会話表現

（高校英語）

大学受験レベルの英語を身につけるには、「何よりも文法を完全にマスターすることだ。」と思っていませんか？もちろん文法の理解や知識は英語力を身につけていく上で、とても有効な手段のひとつですし、その力量を問われる出題も大学入試で見られます。ただ、文法知識そのものが求められる問題の量は、全体から見るとそんなに多くはないのです。

文法知識そのものより、それも含めた広い意味での『英語力』、すなわち、英語の文章を一定の時間内に読み、理解する力、日常の会話を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などが求められているのです。ですから、いつまでも「単元別文法学習」を繰り返しているだけでは、大学入試問題は解けないのです。

この貴重な夏休みを有効活用するために、みなさん、それぞれの状況に応じて以下のような目標設定をし、実行に移しましょう。

・単元別文法学習を１日も早く終え、実践演習形式の文法・語法問題へと移行する。
・毎日、最低ひとつの英語の文章（長文）を読む。
・問題形式ごとにその解法テクニックを学び、それが使えるよう反復練習をする。

高校生セット授業案内（個別授業）

下記は、英語セット授業の抜粋です。他のセット授業につきましては、「夏期講習セット授業」をご覧下さい。

●【単元別】文法コース（各３コマ）
弱点解消や学校の授業の先取り・復習のためのコースです。

●【演習形式】コース（各５コマ）
「文法・語法」、「読解」、「長文総合」、「英作文」と問題形式別に演習問題に取り組むコースです。

●【センター試験】対策コース（各３コマ）
設問ごとのコース設定がしてあります。それぞれの形式に慣れるところから始め、その解法テクニックを身につけることを目指します。

●【私立大学】入試対策コース（各５コマ）
レベル別、問題形式別のコース設定で、過去問を解きながら、その対策を講じます。

夏期講習についての質問で多い声を取り上げています。ご参考にして下さい。

○「単元別学習」と「演習形式」とは、何が違うのですか？

まずこの問題を見てください。

"What's your favorite sport?"

"　　(　　)　　"

1. Playing ski　　2. Ski　　3. Skiing　　4. To ski　　（センター試験）

高校入試のような簡単な問題のようですが、よく見てみると、「あれ？答えが２つある！」と思っていませんか？単元別文法書や問題集を丁寧に学習していても、残念ながらこの問題の答えを１つに絞ることができません。そういった参考書の大半は、英語の使い方をできるだけ単純化し、パターン練習がしやすいようにまとめられています。その解説をこの問題の場合にあてはめると、質問に対する答えの文は My favorite sport is に続く補語の部分を選ぶので、動名詞でも不定詞でもよいとなってしまうのです。ところが、実際に使われる英語では、その表現が本来持つ「語感」で使い分けをしています。不定詞は常に「未来」という語感があるので、「これからすること」「未体験のこと」を表し、動名詞はそれに呼応する形で使われ、「今、していること」「体験済みのこと」という語感を持ちます。この問題では「好きなスポーツ」をたずねられているのですから、「体験済み」のはずです。よって解答は動名詞の３となります。もしも、問題が What's your dream? であれば、「未体験」なので、不定詞が答えとなります。このように入試問題では、パターン練習のために作られた英語表現ではなく、実際に使われている「生きた英語」が出題されています。演習形式の講座では、実際の入試問題を使用して、そこまで対応できる力を養成します。

○長文を読んでいると、知らない単語がたくさんあったり、ひとつの文が長くて意味がとれないので、まず単語や熟語そして文法の勉強を終えてから長文の問題に進む方がいいのですか？

確かに、単語や熟語そして文法などの知識は、量が多いにこしたことはありません。でも、それらはどこまでしても終点、完全はないのです。言い換えると、そういった知識がたとえ不十分でも長文は理解できますし、設問に答えることはできます。次の英文の意味を考えてみてください。He xxxxx me a wonderful present yesterday. 肝心な動詞の部分がありませんが、理解できますよね。それは、基本的な英語の構文の知識があるからです。同様に、一文全部がわからなくても文脈からあるいは論理マーカーとなるちょっとした単語を意識するだけで、その文の意味を正しく類推することができます。実は、大学入試の長文問題のほとんどは、語彙力などの知識を問う問題ではなく、この正しく類推し、文脈を把握し、大意をつかむ力を問う問題ばかりなのです。「長文対策講座」では、文法学習などではまったく身につかない「英語の論理展開のしくみ」や「文脈を把握するための論理マーカー」やその他「英語を読むための総合力」が身につくよう学習します。